

周縁化と子育てのライフサイクルから

有村大士（日本社会事業大学 教授）

周縁化への対策の必要性

- 国連こどもの権利委員会のからの「日本の第4回・第5回政府報告に対する総括所見」
（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100078749.pdf>）から、「周縁化」に直接言及されている一部を抜粋



パラ17抜粋

- (c) 周縁化された様々な集団に属する児童に対する社会的差別が根強く残っていること



パラ18抜粋

- (c) アイヌを含む民族的少数者の児童，被差別部落出身の児童，韓国・朝鮮人（Korean）等の日本国籍以外の児童，移住労働者の児童，LGBTIの児童，婚外子並びに障害児に対する実質的な差別を減らし，防止するために，意識啓発プログラム，キャンペーン及び人権教育を含む措置を強化すること。

- この部分には書かれていないが、社会的養護・養育のもとで育つこどもをはじめとする様々な子どもたちが対象である
- 周縁化のメカニズムと対策
 - 声を聴くことは重要で賛成できる
 - 一方、声を聴く対象には、周縁化されがちなこどもと家庭を加えるべきである

周縁化されがちな対象からの学びの例

- 障害のあるこどもたち
 - 多様性とインクルージョン
 - 就学（将来）にあたってのプレッシャー
 - ペアレンティング
- 社会的養護・養育
 - 孤立しやすい家庭
 - 支援を必要とする家庭
 - 自身が受けた養育における傷つき体験を持つ親
 - 十分受け止められた経験を持たない親
 - 自立における課題

- 社会的養護・養育、あるいは相談につながることでできなかった子どもたち（社会がニーズキャッチできていない場合も含む）のうち、たいへんな苦勞をしている子どもたちがいる
- 周縁化されがちが対象への着目により、その対象への配慮や解決策についての気づきと共に、普遍的な気づきも与えられる
 - それぞれの対象についてニーズに向き合うことは、こども施策全般の発展を後押しする
 - 当事者と共に、サービスを作り上げることでできる仕組みを、公的、私的な資源、あるいは民間団体と一緒に考えていく必要がある

周縁化されがちな対象に対しての施策の在り方

- 施策の連続性の担保
 - 先述のように周縁化されがちなこどもと家庭のニーズは、すべてのこどもと家庭でもニーズとしてある
 - スペクトラムのようなモデルの設定が必要
 - 線引きのようなモデルを作ると、グレーゾーンを作ってしまう
- Wellbeing
 - こどもの権利と尊厳（内在的価値）の保障
 - 自己実現（今、この瞬間を、自分らしく生きていると実感を持っているか）
 - を踏まえた上での、測定できる／できないWellbeingを考える

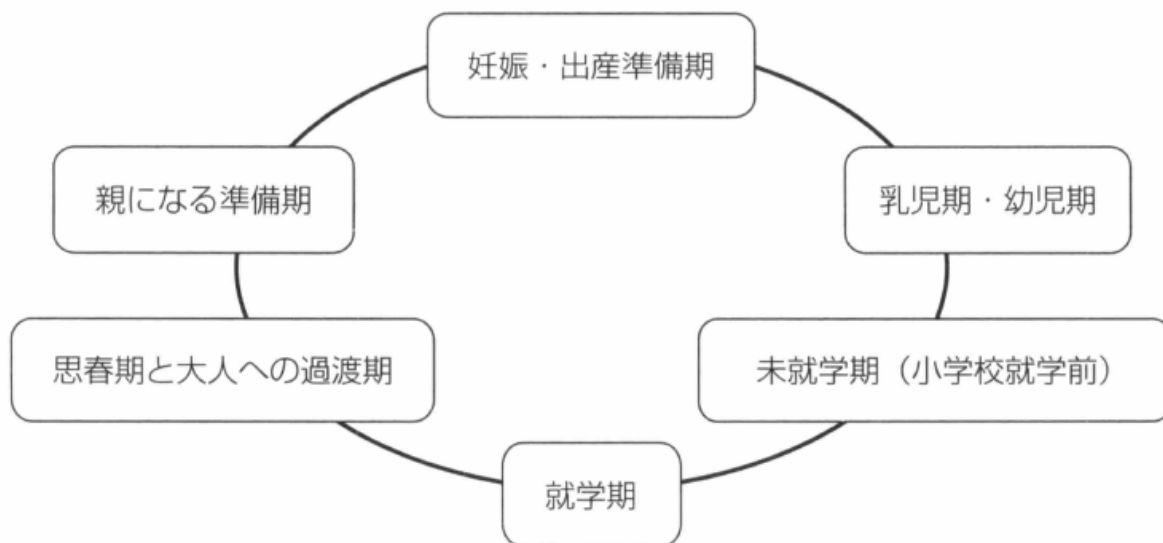
A自治体のアンケート調査の分析から

- 結果については紹介してもいいが、どこの調査かは明示しないでほしいとの約束で使わせていただいている内容
- 抜粋
 - 家も学校も地域にも居場所がないと回答する子どもたち
 - 落ち着ける居場所は家庭外の場所を選択
 - 適切な相談者に相談するということを選択せず、「そのままにしている」との回答が多く、相談するならネットと回答
 - 支援者だけでなく、大人や社会を信用しない子どもたちを「開く」意味でも、広い意味でのアドボケート機能が重要なのでは
- 幼少期からの豊かな人間関係により、人間や社会を信用できるところまでサポートが必要
 - サービスにつながることでできないこども（親）は、幼少期から社会を信用できなくなった、諦めてしまった子どもたちである可能性（自己肯定感も低い）
 - 保護者の幼少期も含めて、受け止められなければならない対象がいる
 - ①ニーズキャッチ、②受け止められ、人を信用できるようになる、③社会の支援が受けられるようになる、④自立と他者との共存
- 子どもたちが周縁化されないために、何ができるか

こどもの育ちについて、ライフサイクルから考える



- こども家庭庁資料より



- 木村容子・有村大士編（2021）『子ども家庭福祉[第3版]』ミネルヴァ書房。
- 元々の出所：高橋重宏監訳（1995）「まず、子どもを—こどものためのサービス諮問委員会報告」日本総合愛育研究所 家庭・出生問題総合調査研究推進事業報告書。（カナダ・オンタリオ州の報告書の翻訳）

まとめ

- 「全ての人が当事者」と示されていることには強く賛成したい
- 全ての子育てを考えるために、そこには周縁化されがちなこどもと家庭が含まれなければならない
- 周縁化されがちなこどもと家庭が含まれるには、具体的な方策が必要
- しかし、「全ての人」のニーズには多様化があり、また社会的な周縁化は起きている
- こどもまんなかチャートを考えてみると、「こども」、「保護者・養育者」と「直接接する人」の距離は近い人もいれば、遠い人もいる
- 自らが人間として受け止められて、支えられて、他者を受け止められるようになる
- 「ニーズキャッチ」、「つながる」、「受け止める」、「開く」、「つながり続ける」ための具体的な検討が必要

意見を聴く際の工夫

- こどもが開くまでのプロセスを大事にしてほしい
- 大人を信用せず、話すことのできない子どもたち、他者や社会が信用できず、興味を持たない親御さんがいることもある
 - こどものアドボケートやそのこどもが信頼できる大人（支援者、話を聞いている人、話ができる当事者）が代弁することも必要か